



学校だより 神橋

令和4年11月30日

横浜市立神橋小学校

12月号

「ダンボ」

こうちょう はんじ たまみ
校長 判治 珠美

「ダンボ」をご存知ですか。ディズニーのアニメ映画で、私の家では、子どもたちが小さい頃よく一緒に観た、大好きな映画です。近年実写化もされました。いろいろなアニメが実写化されるようになりましたが、まさか「ダンボも？」と、びっくりしたのを覚えています。

「ダンボ」は、大きな耳をもって生まれた子象の物語です。お母さん象は初めての子どもに、大きな耳も含めて愛情をたっぷり注いで育てます。けれども仲間の象やサーカスの団長・団員たちは、みんなと違う大きな耳を笑い、ダンボをピエロ役にしてしまいます。サーカスでも観客に笑われ、ばかにされたダンボが悲しみに沈んでいると、唯一の理解者である団員のネズミが、ダンボが大きな耳を使って飛べることを発見します。サーカスで高いところから飛び降りたダンボは、ネズミの応援で勇気を出して耳を広げ、見事に空を飛ぶことができ、観客や仲間を驚かせます。そしてサーカスの人気者になったというお話です。

みんなと違う大きな耳を活かすことによって、ダンボにしかできないことをすることができたのです。また、その個性を周りも認めることで、みんなが幸せになることができました。

「人と同じ」であることで安心し、「みんなと違う」「みんなと同じことができない」ということを、笑ったり、ばかにしたり、仲間外れにしたりすることがあります。でも、もともと私たちにはそれぞれ違いがあります。違いを「個性」や「よさ」として認めること、そして、自分自身が、そのよさを自分の強みとして活かしていくことが大切です。それが多様性につながっていくでしょう。

12月は「人権週間」があります。今年は「自己肯定感を育む」をテーマに、各クラスで自分のよさ、友達のよさに気づき、認め合えるためのプログラムを行っています。自己肯定感とは、周りから認められたり評価されたりする経験が影響するそうです。ご家庭や地域でも、ぜひ、子どもたちのいいところ、がんばっているところを見つけて、伝えていただければと思います。

